

シャジクモ科植物の種の同定と地域貢献活動

阿部明紗華・徳永嵩都・中井温翔・久後地平（兵庫県立香寺高等学校）

シャジクモ科植物の種の同定

はじめに

先輩方は香寺高校の周辺にある46か所のため池を回り、そこに生育している植物を調べた結果、3つの池からフラスコモを、1つの池からシャジクモを発見している。藻類は水鳥の体に付着して分布を広げるとされているが、発見された池が3つのみであることから、この考え方に疑問を持った。3つの池の距離が離れていることから、発見されたフラスコモは、市川の氾濫原や山地の谷間にある湿地など、異なった環境に生育していた別種が、池に隔離されて遺存しているのではないかと考えて、種の査定をおこなった。

調査地点

香寺町は姫路市北部に位置する（図1）。これまでに調査された46か所のため池と、シャジクモ科植物が見つかった奥三谷中池、別所池、須茂谷池の位置を示す（図2）。奥三谷中池は、山地の谷間に作られている（図3）。別所池は、段丘上に作られている（図4）。須茂谷池は、市川に近く、別所池よりも低い段丘上に作られている（図5）。

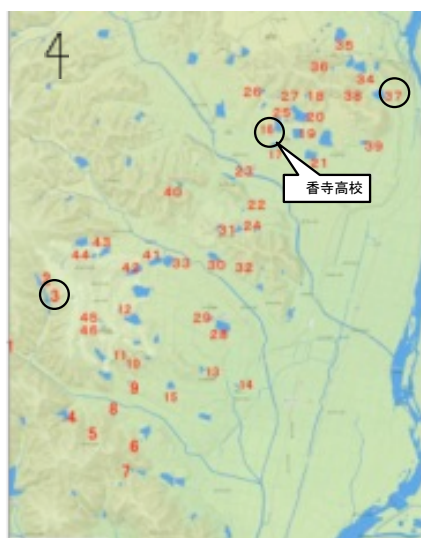


図2 調査した46箇所のため池
3奥三谷奥池, 46 別所池, 37 須茂谷池



図1 香寺町の位置



図3 奥三谷奥池



図4 別所池



図5 須茂谷池

種の査定方法

主の査定には、内田老鶴圃の日本淡水藻図鑑を用いた。シャジクモ科植物の検索の概略は以下の通りである。

- 1：シャジクモ属は最終枝の細胞が1つ、フラスコモ属は最終枝の細胞が2つ以上。
以下、フラスコモ属について記す。
- 2：小枝が一回分枝。小枝が二回分枝。
- 3：細胞の先端が急に細くなり、ソーセイジ状になっている。細胞の先端がゆるやかに細くなる。
- 4：雌雄同株である、A：小枝の長さが6cmより長い。B：小枝の長さが6cmより短い。
- 5：雌雄異株である、A：藻体の長さが30cmより長い。B：藻体の長さが30cmより短い。
- 6：雌器から卵胞子を取り出して、螺旋の数を調べる。

結果と考察

採取されたシャジクモ科植物を図6～図9に示す。

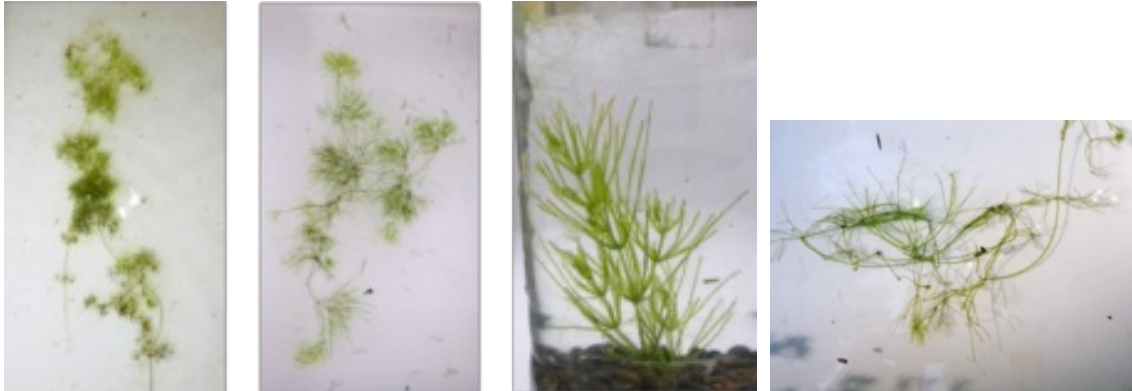


図6 須茂谷池のフラスコモ 図7 別所池のフラスコモ 図8 別所池のシャジクモ 図9 奥三谷奥池のフラスコモ

図8のシャジクモからは未だ雌器を採取せず、種の査定は出来ていない。図9のシャジクモは、写真だけが残っているため種の査定は出来ていないが、図6および図7のフラスコモと比較すると、操体の形が異なり、出現期も3月頃から春までに限定されるよう異なるため、別種であると思われる。図6に示す須茂谷池のフラスコモは、卵胞子の形態まで検索した結果カラスフラスコモと査定で来た(図10)。図7に示す別所池のフラスコモは、卵胞子の形態まで検索した結果ヒメフラスコモと査定で来た(図11)。

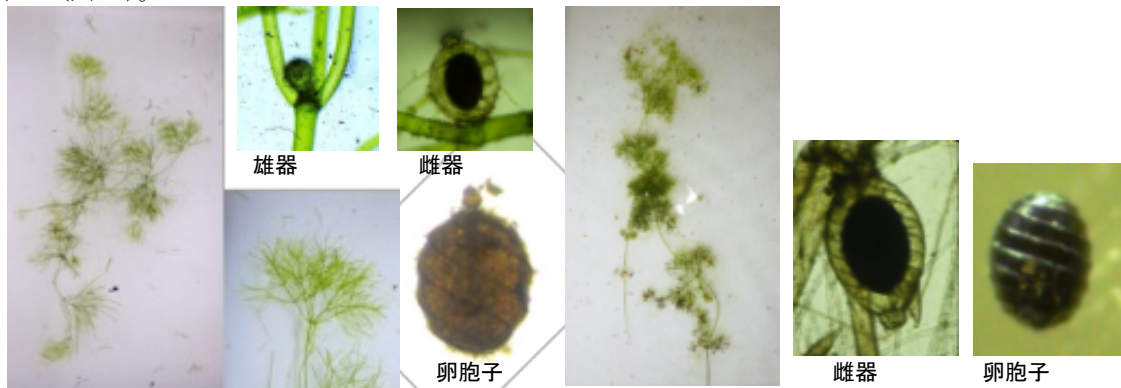


図10 ヒメフラスコモ(*Nitella flexilis*)

図11 カラスフラスコモ(*Nitella opaca*)

シャジクモ科の藻類が分布するため池が少ないことと、隔たる位置にあるため池に生育するフラスコモが別種であることが調査結果から明らかになった。まだ、発見したシャジクモ科の藻類が少ないため、結論はできないが、香寺町のため池には、池が作られる前に異なる自然環境に生育していた複数のシャジクモ科藻類が、隔離されて生存している可能性はあると考えている。

地域貢献活動

希少植物の保護育成と観察会の開催・参加

学校に11基の大型ポットを設置して、ため池に生育する希少植物を保護・育成している。また、ビオトープとして活用されている使われなくなった、ため池を整備し、希少植物を移植する活動をしている。香寺高校近隣の小学校から児童を募集して、夏にため池の自然観察会を行っている。「ため池の自然」と題して、月の5枚ずつ、ため池の生物を紹介する広報誌を発行し、香寺町の小・中学校各クラスおよび25の自治会に配布している。